

Newsletter

追手門学院大学ベンチャービジネス研究所

2011年度 土曜セミナー全9回

開講にあたって

追手門学院大学ベンチャービジネス研究所では、2011年度市民講座の一環として土曜セミナー全9回を開催することになった。本年度は「新たなイノベーションへの挑戦」をテーマに、本研究所員並びに学外研究員がそれぞれの専門分野の視点に立って、日頃の研究成果を披露することになった。各講演の概要は当研究所Newsletterで紹介することにした。

追手門学院大学ベンチャービジネス研究所長 米倉 稜

第3回

「エネルギーシフト ～脱原発への道筋～」の報告



経済学部 ヒューマンエコノミー学科 今堀 洋子

今回は、5名の参加者の方々と、「エネルギーシフト ～脱原発への道筋～」について、共に語り合う時間となった。

まずは、参加者の方々の自己紹介と、セミナー参加の動機について、語っていただくことから始めた。

Aさん イノベーションに興味がある。再生エネルギーへの転換を希望している。10年前には、デンマーク、フライブルグへ現場視察し、その際、アイスランドの地熱の施設の見学にも行っている。6月12日に開催された自然エネルギーに関する「総理・有識者オープン懇談会」で、自然エネルギーへのシフトを提言しているソフトバンクの孫さんの意見に共感している。

Tさん IT企業を退社後、ホームヘルパーのアルバイトをしている。7～8年前から、須磨海岸のクリーンアップの活動に携わっている。この土曜セミナーは、A氏の誘いで、環境にも興味があり参加している。原子力はトイレのないマンションであるのに、多くの人にその認識がないことを危惧している。つい先日、原子力にずっと反対し続けている、京都大学原子炉研究室の小出

先生の講演を聞いた。反対論者が無視され続けてきた現実があることを、大きな事故が起きて改めて思った。

Yさん 80歳で、元松下電器産業で、ビデオの開発をしていた。土曜セミナーに毎回参加している。技術系の仕事していた関係で、アタックというOBの技術者の集まりで、関西の中小企業の支援をしている。元会長は関西電力の副社長である。原発について、今回の地震は、一つの大きな経験であり、色々な意見が出てきて良いのではないかと。メディアが一斉に原発反対というのは情けない。前向きな意見、今回のことを反省して、今後どうすべきか？原発反対一辺倒の論調が気になっている。自分自身は、新しいエネルギー源を見つけていかなければならないが、原発と共存する方向ではないかと思っている。

IWさん 72歳、案内をもらって参加した。原発については、小出先生の毎日放送（ラジオ）の種まきジャーナルを聴いており、大変興味深い。自民党政権の利権で、国民はだまされていたことがわかり、非常にショックを受けている。皆で原発について語りたいと思う。

ISさん 島根県出身。松江市に原発があり、身につま

される。今、情報が錯綜しており、安心安全を含め、色々な問題がある。自分は反原発だが、果たして、昭和40年代に戻れるのか？原子力を守りながら、残していくべきかもしれない。一方で、放射能汚染の状況もとても気になる。できうる限り、情報を開示をしてほしいと願う。本来、日本人は暗いものを明るくしていく民族で、祭り好きである。和をもって尊ぶ精神で、皆でわいわい、新しいものを創っていきたい。

その後、二人ペアーになって、それぞれの想いを対話で深めていただいた。今堀からは、参加者の方々の想いや動機を受けて、関連する情報提供や、担当している授業「地域と暮らし」の受講生（大学生）が、今の状況について、どのように感じているかを紹介した。それらを

経て、参加された方々の気づきや感想として以下のようなものが挙がった。

- 今までエネルギーに関して、コスト意識、あるいは、利益のみ追求しすぎ、原発一辺倒であった。
- 原発もあるけれど、他の選択肢もあるのではないか。
- 皆が京大の小出先生の意見を抹殺してきた事実を重く受け止める。
- 原発に代わるものをどうするか？どれくらいのコストがかかり、期間はどれくらいで、何が一番、日本にとって良いのかを考えていきたい。
- 自分のふるさとの島根県、松江、安心安全な暮らしを守っていきたい。放射能の危険性をもっと知りたい。

第4回

これからの企業内教育の在り方について



経済学部 枋尾 安伸

今回の講座では、ベンチャー企業を含めた中小企業において、あるべき企業内教育とはどのようなものになるのかについて、私が事例調査した企業から導き出した仮説を基に検討したいと思います。

現在、雇用をめぐる変化には、

- ① 終身雇用や年功序列の崩壊
- ② 派遣労働や能力給の導入

などさまざまな変化が挙げられます。しかし、このような終身雇用をはじめとした、日本の労働環境におけるこれまでの慣行は、従業員だけでなく経営者にもさまざまなプラスの役割を果たしてきました。しかし、このような慣行が外的要因や内的要因などさまざまな影響によって、企業にとって維持できなくなっていることが現在の状況であると考えられます。

そこで、本講座では雇用をめぐる変化に対する対処方法を探るために、従来の伝統的な人材育成方法、特に教育方法を分析軸として、日本の中小企業、特に元気な中小企業の現場を調査しました。そこで明らかになったのは、「適性による配置」という従来ではあまりおこなわれていない方法による人材育成方法です。この場合の適性とは、生来人がそれぞれ持っている能力ともいえるものです。元気な中小企業の現場では、この適性を早期に

発見して、その適性に沿った配置転換を行うことで企業業績を上げているのです。

この適性による配置のカギは、教育方法にあります。本講座では、この教育方法の内実を明らかにすることで、今後のあるべき日本企業の教育方法、特に人材育成にあまり資本を投下する余裕のない中小企業における一つの教育方法のあり方を提案します。





追手門学院大学

ベンチャービジネス研究所主催 経営セミナー

テーマ

松下幸之助 成功の発想と危機克服の心得

松下幸之助が遭遇した経済危機や、大型台風（室戸台風）など、
大きな危機に対処し克服した事例を紹介しながら、リーダーとしての
危機克服のための考え方と実践行動を具体的にお話します。

講師 川越 森雄 氏（松下資料館 顧問）

●講師プロフィール

1946年、鹿児島県出身。1969年、松下電器産業（現パナソニック）に入社。同年、PHP研究所に配属後、「PHP」誌の普及や書籍の出版、研修事業に携わる。普及二部長、出版部長、研修局長等を経て、2005年より松下資料館・館長、2011年4月 顧問に就任。

松下幸之助が存命中、20年間に亘って直接、指導、薫陶を受けながら仕事をする。企業、大学、各種団体での勉強会、講演会の講師も務めている。全国PHP友の会・常任顧問／追手門学院大学ベンチャービジネス研究所・顧問

日時 2011年10月22日（土）
午前10時～11時50分（受付午前9時30分～）
質疑応答：午前11時55分～午後12時25分

会場 追手門学院大学5号館3階5301教室

後援 茨木商工会議所

参加費無料

お申し込み・お問い合わせ

追手門学院大学ベンチャービジネス研究所

TEL: **072-641-7374**
(月・水・金 9:15～16:00)

FAX: **072-643-9597**

E-mail venture@ml.ccile.otemon.ac.jp

<http://www.otemon.ac.jp/investigation/labo/venture/>

お申し込み締切日 2011年10月19日（水）

お申し込み方法

FAXまたはメール（件名を「経営セミナー」としてください）で、
郵便番号・住所・氏名（フリガナ）・電話番号をご記入の上、お申し
込みください。



OTEMON GAKUIN UNIVERSITY





追手門学院大学

ベンチャービジネス研究所主催 経営セミナー

テーマ 松下幸之助

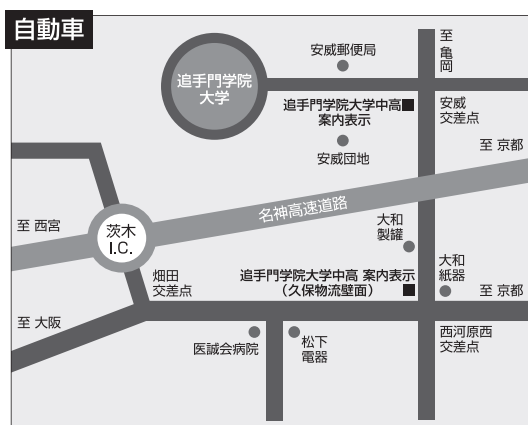
成功の発想と危機克服の心得

講師 川越 森雄 氏(松下資料館 顧問)



会場アクセス

自動車



大阪方面から
171号線・西河原交差点を左折、安威団地・郵便局を経て直進。

京都方面から
171号線・西河原交差点を右折、安威団地・郵便局を経て直進。



スクールバス

JR茨木駅と阪急茨木市駅からスクールバスを運行。スクールバスは大学構内まで乗り入れています。

スクールバス時刻表

【土曜日】		
登校便	下校便	
JR茨木発	阪急茨木駅発	大学発
8:45	8:45	11:20
9:40	9:40	12:00
10:20	10:20	13:00
		13:30
所要時間：約20分		

追手門学院大学ベンチャービジネス研究所 〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15 TEL 072-641-7374 FAX 072-643-9597

参加申込は

追手門学院大学
ベンチャービジネス研究所まで

FAX: 072-643-9597

申込締切日

10/19
(水)

参加申込書

FAXでお申し込みの際は、この用紙をご利用ください。

申込日：2011年 月 日

フリガナ	フリガナ
氏名	勤務先
ご住所 (勤務先でも可)	ご自宅・勤務先 どちらか一方に○をつけてください
同伴者	
メールアドレス	
TEL	FAX

※ご応募いただいた個人情報については法令に従い安全かつ適正に管理し、ご本人への連絡及び今後開催するイベント等のご案内のみ使用させていただきます。

第2回 追大学生ビジネスプランコンテスト

募集要項

1 趣旨

本学の教育理念(目的)は「独立自強・社会貢献～自由と調和の人間教育をめざして～」ですが、その実践事業の一つとして、ベンチャービジネス研究所では、この度、本学学生による「ビジネスプランの作成と発表」の場を設けることにしました。これによって学内に起業家マインドの醸成と起業の正しいあり方への関心が高まることを期待しています。

2 募集内容

ニーズがあるものの供給がない、社会に役立つビジネスプラン(またはビジネスアイデア)であること。

3 応募資格

追手門学院の高校生、大学生、大学院生、ならびに茨木市内の高校に通う生徒であれば誰でも応募できます。個人、グループは問いません。

4 審査基準

プラン・アイデアの創造性、市場性、実現可能性、成長性、社会性、及び、プレゼンテーション能力。

5 審査(予定)

本学ベンチャービジネス研究所の所員・研究員・顧問の中から審査委員会を設けて審査します。

6 審査のスケジュール

平成23年7月1日(金)：募集開始
平成23年10月27日(木)：応募書類の提出締め切り
平成23年11月初旬：第一次審査結果の発表
平成23年11月14日(月)～11月22日(火)：プレゼン指導(希望者のみ)
平成23年11月26日(土)：ビジネスプラン発表会
平成23年12月初旬：最終審査結果の発表と表彰

7 応募方法

所定の応募申込書に必要事項を記入の上、下記事務室まで持参、郵送、FAXまたはメールでご応募下さい。プラン(アイデア)の内容が著しく異なれば1人で何件でも応募することができます。ただし、それぞれについて応募申込書を作成して提出して下さい。応募申込書は下記のホームページからダウンロードして下さい。

8 応募申込書 提出先・問合せ先

追手門学院大学ベンチャービジネス研究所(中央棟1階)
〒567-8502 大阪府 茨木市 西安威2-1-15 TEL:072-641-7374 FAX:072-643-9597
H.P: <http://www.otemon.ac.jp/investigation/labo/venture/>
Email: venture@ml.ccille.otemon.ac.jp (月・水・金 9:15～16:00 事務員 宮下)

9 募集期間 平成23年7月1日(金)から平成23年10月27日(木)

10 応募者のサポート

第1次審査を通された方の中で、希望者の方にはプレゼンテーション指導を行います。(日程は上記審査スケジュール参照)希望される方は上記問合せ先まで連絡ください。

11 賞状と賞金

●優秀賞 QUOカード2万円分:1名 ●奨励賞 QUOカード1万円分:1名 ●佳作 QUOカード5千円分:6名
(1次審査通過者の中から惜しくも賞を選ばなかった方全員にUSBメモリ1個差し上げます)

12 その他の注意事項

応募プランの知的所有権は応募者に帰属します。受賞したプランは、応募者に了解を得て、概要を公表します。審査結果の発表後、盗作や虚偽の事実等が判明した場合受賞は失格となります。その他、応募に関して、何か不明な点がありましたら、上記問い合わせ先まで、遠慮なくご質問ください。

とく りつ し きょう しゃ かい ゆう い
独立自強・社会有為

～自由と調和の人間教育をめざして～

募集! 第2回 追大学生 ビジネスプランコンテスト

追手門学院大学の上記“理念”の実践事業の一つとして、
学生の皆様によるビジネスプランやビジネスアイデアの提案を募集します。
個人、グループを問いません、応募してください。

期間 平成23年7月1日(金)～10月27日(木)まで



追手門学院大学 ベンチャービジネス研究所

〒567-8502 大阪府 茨木市 西安威2-1-15 (TEL:072-641-7374)
H.P: <http://www.otemon.ac.jp/investigation/labo/venture/>
Email: venture@ml.ccille.otemon.ac.jp
(月・水・金 9:15～16:00 事務員 宮下)

応募方法やスケジュール等、詳しい内容は裏面をご覧ください。

大学院連合による講座

インテリジェントアレー

専門セミナー

テーマ イノベーションとベンチャーで新時代の経営を考える

製品のライフ・サイクルの短縮化から、経営にとって最も重要なことはスピードであると言われている。このことから現代は中央研究所中心の時代から、企業内部のアイデアと外部（他社）のアイデアを共同利用するオープンイノベーションの時代への転換期である。そこで我々は、イノベーションとベンチャーをキーワードにして、新時代の経営を学際的に考えてみたい。

追手門学院大学ベンチャービジネス研究所長 米倉 穰

講座回数	日時・時間	テーマ	講師
第1回	11月26日（土） 15：00～17：00	テーマ イノベーションとベンチャーの創造 「イノベーションについての最近の研究アプローチを紹介しながら、第1, 2, 3次ベンチャーブームの実態を分析してみたい」。	追手門学院大学 経営学部教授 米倉 穰
第2回	12月3日（土） 15：00～17：00	テーマ そのアンケートは間違っている!? さまざまな場面で用いられるアンケート調査について陥りやすい問題を実例を交えて解説し、投影法的なアンケートの作り方について紹介する。	追手門学院大学 経営学部准教授 原田 章
第3回	12月10日（土） 15：00～17：00	テーマ 産業のサービス化とイノベーション 産業のサービス化が進展する中で企業経営の立場から自社の製品をどのように革新すべきか。ミクロ・マクロから考えます。	追手門学院大学 経営学部教授 篠原 健
第4回	12月17日（土） 15：00～17：00	テーマ 再びイノベーションについて 「イノベーションの碩学シュンペーター、ドラッカー、クリステンセン、プラハラード、野中、チエスブローの见解を下に、新時代の経営を考えてみたい」。	追手門学院大学 経営学部教授 米倉 穰

お勧め
したい方

■ イノベーションの最近の研究動向を知りたい方

■ ビジネス心理に関心のある方

■ 情報分野に関心のある方

● お問い合わせ ●

特定非営利活動法人関西社会人大学院連合

専門セミナー受付担当

TEL : 06-6210-3620

<http://kansai-seminar.com/courses/view/53>

追大ベンチャービジネス研究所が グローバル研究所へ飛躍する！

趣 旨

現代はオープン・イノベーションの時代である。研究所を学内に閉じ込めておくのではなく、グローバルなニーズに対応できるようにシステムを変革していかなければならない。そこでわれわれは、現研究所をグローバル環境に対応できる研究所へ脱皮させようと日夜努力している。その第1弾が、台湾省商業会・台湾綜合研究院・関西ベンチャー学会主催の「日・台ベンチャーフォーラム」に後援団体として参加することになった。研究発表は日本側、台湾側各4名ずつで行う。研究者・実務家各2名ずつで行う。つきましては追大の中から一人でもこのフォーラムに参加頂ければ幸いに存じます。

追手門学院大学ベンチャービジネス研究所長 米倉 穰

日 程	2011年11月2日(水)	出 国
	11月3日(木)	日・台ベンチャーフォーラム開催
	11月4日(金)	新竹サイエンス・パーク見学
	11月5日(土)	帰 国

会 場 台湾省商業会

研究発表者	狩俣 正雄 氏	大阪市立大学大学院教授
	米倉 穰 氏	追手門学院大学 経営学部教授 同大ベンチャービジネス研究所所長
	松村 敦子 氏	有限会社アクティア 代表社員
	三根 早苗 氏	有限会社パワーエンハンスメント 代表社員

主 催 台湾省商業会、台湾綜合研究院、関西ベンチャー学会

後 援 追手門学院大学ベンチャービジネス研究所
※ 費用その他につきましてはベンチャービジネス研究所までお問い合わせ下さい。

追手門学院大学ベンチャービジネス研究所 〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15 TEL 072-641-7374 FAX 072-643-9597

参加申込は

追手門学院大学
ベンチャービジネス研究所まで

FAX: 072-643-9597

申込締切日

9/20
(火)

参加申込書

FAXでお申し込みの際は、
この用紙をご利用ください。

申込日：2011年 月 日

フリガナ	フリガナ
氏 名	勤務先
ご住所 (勤務先でも可)	ご自宅・勤務先 どちらか一方に○を つけてください
同伴者	
メールアドレス	
TEL	FAX

※ご応募いただいた個人情報については法令に従い安全かつ適正に管理し、ご本人への連絡及び今後開催するイベント等のご案内のみ使用させていただきます。

研究グループ 募集

追手門学院大学ベンチャービジネス研究所規程第4条 研究所に前条第6号に基づき研究グループを編成し、研究を推進する。

とあり、下記8つのグループの研究員を随時募集しております。

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| (1) ベンチャービジネス研究グループ | (5) コミュニティ・ビジネス研究グループ |
| (2) 投資に関する研究グループ | (6) 国際研修・調査グループ |
| (3) マーケティング研究グループ | (7) アカウンティング・グループ |
| (4) アントレプレナーシップ研究グループ | (8) その他必要と認められる研究グループ |

お申し込みは下記まで。

お問い合わせ・お申し込み先：追手門学院大学 ベンチャービジネス研究所

TEL：072 (641) 7374 (月・水・金 9：15～16：00)

FAX：072 (643) 9597

<http://www.otemon.ac.jp/investigation/labo/venture/>

E-mail venture@ml.ccile.otemon.ac.jp

土曜セミナー参加者募集

「土曜セミナー」参加申込をご希望される方は、下記FAXまたはメール（件名を「土曜セミナー」としてください）で、郵便番号・住所・氏名（フリガナ）・電話番号・参加日・テーマをご記入の上、お申し込みください。

定 員：24名（先着順）

受講料：無 料

会 場：追手門学院大阪城スクエア

所在地：大阪市中央区大手前1-3-20（追手門学院大手前中・高等学校本館6階）

FAX：072-643-9597

E-mail venture@ml.ccile.otemon.ac.jp

講 座 日 程

開催日	回	時間	テ ー マ	講 師
終了 6月11日(土)	1	18:30 ～ 20:00	「イノベーション研究のフロンティア」	米倉 穰
終了 6月18日(土)	2		「クローズド・イノベーションからオープン・イノベーションへのパラダイム転換」	米倉 穰
終了 7月 2日(土)	3		「エネルギーシフト ～脱原発の道筋～」	今堀 洋子
終了 7月16日(土)	4		「これからの企業内教育の在り方について」	朽尾 安伸
11月12日(土)	5	受付 18:00 より	「サービス・イノベーション ～製造業のサービス化～」	篠原 健
11月19日(土)	6		「人的ネットワークの投影法的測定」	原田 章
12月 3日(土)	7		「新たなイノベーションへの挑戦～温故知新、19世紀の英米の文化・文学から探る『発明(イノベーション)の精神』」	増崎 恒
12月10日(土)	8		「中国の高度経済成長 新興ベンチャーの隆盛」	潘 燕萍
12月17日(土)	9		「オープン・イノベーション時代の知的財産戦略」	林 茂樹

Newsletter vol.1

■ 編集・発行 2011年8月31日 印刷
2011年8月31日 発行

■ 編集代表者 米 倉 穰

■ 印 刷 所 川西軽印刷株式会社

■ 発 行 所 追手門学院大学 ベンチャービジネス研究所

〒567-8502 茨木市西安威2-1-15

TEL/072(641)7374 FAX/072(643)9597

E-mail: venture@ml.ccile.otemon.ac.jp

<http://www.otemon.ac.jp/investigation/labo/venture/>